

# 架け橋期のカリキュラム作成の手引き

長崎県版



～すべての子どもにウェルビーイングの架け橋を～



令和8年2月



長崎県幼児教育センター  
長崎県教育庁義務教育課

## はじめに

これまでも幼保小連携の必要性は理解され、小学校入学に当たって子どもの情報の引き継ぎや、交流行事などが行われてきました。しかしながら、小学校の授業を落ち着いて受けることができない状態や不登校は低学年においても大きな課題となっております。それは、子どもにとっても、保護者にとっても、先生方にとっても辛い状況です。そのような状況を改善する一つの方策として、子どもたちが幼児期に遊びや生活を通して培った資質・能力を、小学校でさらに伸ばせるように「学びをつなぐ」という発想のアプローチがあります。

幼児期の学び方と小学校の学び方はずいぶん違います。その違いをお互いに理解し合い、子どもの学びをなだらかに移行できたら、子どもは戸惑わずに、自分の力をのびのびと発揮できるのではないかと考えられます。

今、「架け橋期のカリキュラム」を作成することが全国的に進められています。どのようなカリキュラムにするかは市町に委ねられていますが、県としても参考にさせていただけるようなモデルを作成しました。6回の検討会を開いてまいりましたが、見直すたびに新たな気付きがあり、修正を重ねてきました。そして行き着いた答えが、「これは完成形ではない。まず、これでやってみる。やりながら、修正していく。そうやって、進化し続けることが大事なのだ。」

カリキュラムを作るという共通の目的の下、小学校と幼児教育施設と一緒に相談する過程で、お互いを理解し合い、「子どものために」協働する姿そのものが「幼保小連携」です。

カリキュラムの様式や記入例及び手引きには様々な思いを込めていますが、それをそのまま使っても地域の実態には合いません。長崎県モデルをたたき台として、それぞれの地域に合ったカリキュラムが作られることを期待しています。

最後になりましたが、2年間にわたり、ご協力いただいた5名の検討会委員の皆様に感謝申し上げます。



令和8年2月  
長崎県幼児教育センター

# 目 次

## 1 基本方針・目的

- (1) 幼児教育と小学校教育の接続の重要性
- (2) 幼児期と小学校の学びの特徴

## 2 架け橋期のカリキュラムとは

- (1) 架け橋期のカリキュラムの意義
- (2) カリキュラムの編成にあたって

## 3 架け橋期のカリキュラム（長崎県版）

- (1) 期待する子ども像
- (2) 3つの資質・能力
- (3) 遊びや学びのプロセス
- (4) 園の主な活動／小学校の生活科を中心とした単元構成
- (5) 指導上の配慮事項
- (6) 子ども同士の交流
- (7) 職員の連携
- (8) 家庭や地域との連携
- (9) 様式
- (10) 記入例
- (11) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

### 《参考資料》

### 《参考》市町におけるカリキュラム

# Ⅰ 基本方針・目的

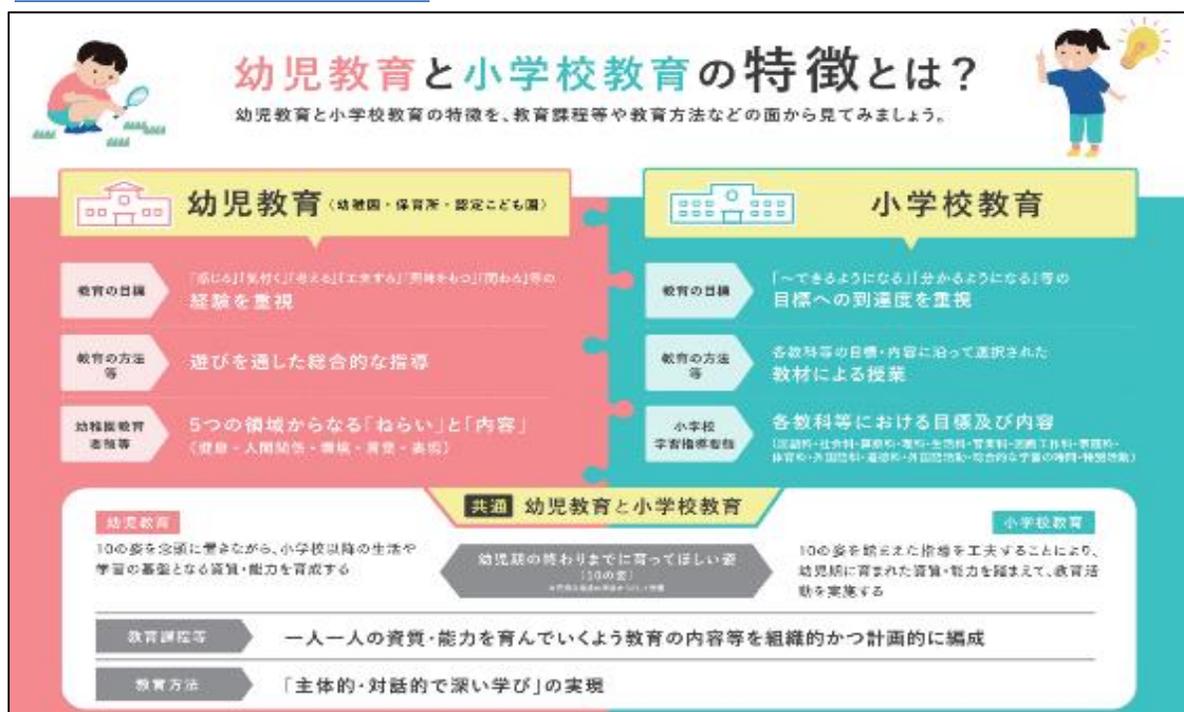
## (1) 幼児教育と小学校教育の接続の重要性

教育は、教育基本法や関係法令が掲げる目的及び目標の達成を目指し、子ども一人一人の生涯にわたる発達や 学びの連続性を見通して行われるものです。その中で、義務教育開始前となる5歳児は、それまでの経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考えたり試したりして実現しようとしていく時期であり、また、義務教育の初年度となる小学校1年生は、自分の好きなことや得意なことが分かっていく中で、それ以降の学びや生活へと発展していく力を身に付ける時期になります。このように、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期で「架け橋期」と呼んでいます。

一方で、遊びを通して学ぶという幼児期の特性に関する認識が、社会的に共有されているとは言い難く、幼児教育については、いわゆる早期教育や小学校教育の前倒しと誤解されることがあります。

また、幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有が未だ十分ではないことが、個別の幼児教育施設の状況や家庭環境等によって小学校入学時点で格差が生じていることや、小学校の入学直後から学習や生活になじめない子どもがいること、施設類型や学校種を越えて相互理解を図ることが困難であることなど、接続期が抱える問題の背景になっていると考えられます。

## (2) 幼児期と小学校の学びの特徴



(出典：文部科学省「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと」)

幼児期は身体と感覚・感性を通じた体験が必要な時期であり、幼児教育はいわゆる早期教育や小学校教育の前倒しではありません。子どもが主体的な遊びの中で試行錯誤し考えたり、保育者の関わりや環境の構成を工夫したりすることにより、遊びを通して学ぶという幼児教育の特性について、家庭や小学校等と共通認識を図っていくことが重要です。

幼児教育と小学校教育の特徴を見てみると、様々な違いがあるように見えますが、一人一人の資質・能力を育てていくことには変わりありません。

## 2 架け橋期のカリキュラムとは

### (1) 架け橋期のカリキュラムの意義

幼保小においては、架け橋期の円滑な接続をより一層意識し、乳幼児期の子どもそれぞれの特性など発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性や0歳から18歳の学びの連続性に配慮しつつ、教育内容や指導方法を工夫することが求められています。

そのために、幼保小が教育課程の構成原理等の違いを越えて相互理解を深め、幼保小が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、架け橋期のカリキュラムを作成することが重要です。また、その際は、3要領・指針において幼児期の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」等を手掛かりとして活用していきます。

具体的には、3要領・指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等や小学校学習指導要領を参照しながら、地方自治体が定める教育に関する基本的な方針等や幼児教育施設・小学校の教育目標、子どもの実態等を踏まえて、幼保小が協働して「期待する子ども像」や「育みたい資質・能力」を明らかにするとともに、この「期待する子ども像」や「育みたい資質・能力」を基にして、「園で展開される活動」や「小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」等を具体的に明確化していくことが考えられます。そして、このような取組を幼保小それぞれのカリキュラム・マネジメントと連動させていくことが大切です。

### (2) カリキュラムの編成にあたって

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育・保育と小学校教育の関係者が連携して作成するものです。地域、園・小学校が創意工夫をしながら、それぞれの特色を生かしてカリキュラムの作成ができるようにします。

具体的には、幼保小が協働して「期待する子ども像」や「育みたい資質・能力」を明らかにするとともに、この「期待する子ども像」や「育みたい資質・能力」を基にして、「園で展開される活動」や「小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」等を具

体的に明確化していくことが考えられます。その際には、幼児期の遊びを通した学びが小学校の学習にどのようにつながっているかについて、幼保小の先生が子どもの姿の事例を通して、具体的に対話をすることが重要になります。

小学校においては、架け橋期のカリキュラムの実効性を高めるためにも、幼児教育と小学校教育の円滑な接続において重要な役割を担うスタートカリキュラムの位置付けを再確認し、架け橋期のカリキュラムを踏まえた教育課程の編成・実施・改善を進める中で、スタートカリキュラムの充実を図ることが必要です。架け橋期のカリキュラムを作成した後は、その実効性を高めていくため、幼保小が架け橋期の教育や子どもの姿等を共に振り返り、教育の改善・充実につなげていくことが重要です。

### 3 架け橋期のカリキュラム（長崎県版）

#### （1）期待する子ども像

「期待する子ども像」は、架け橋期の教育活動を通して育みたい子どもの姿を、園や学校の教育理念や地域の実情を踏まえて具体的に描いたものです。これは、カリキュラム全体の目標や活動内容を考える際の出発点となります。幼保小で話し合っていて決めていくものです。

#### 記入のポイント



##### ① 園・学校の教育目標との関連を意識する

既存の教育目標や理念とつながりをもたせることで、架け橋期の位置付けが明確になります。

##### ② 子どもの発達段階を踏まえる

幼児期から小学校低学年への移行期にふさわしい、心身の発達や社会性の育成を意識した内容にします。

##### ③ 具体的な姿を描く

抽象的な表現ではなく、「友達と協力して遊ぶことができる」「自分の思いを言葉で伝えられる」など、日々の活動の中で見られる具体的な行動や態度を記述します。

##### ④ 地域や園・学校の特色を反映する

地域の文化や環境、園・学校の特色を活かした「子ども像」にすることで、より実践的なカリキュラムにつながります。

## (2) 3つの資質・能力

この欄には、幼児教育での「生きる力の基礎」、小学校教育での「生きる力」を育むための3つの資質・能力について記入しています。

## (3) 遊びや学びのプロセス

この欄では、5歳児から小学1年生までの2年間を通して、子どもがどのように遊びや生活を通して学びを深め、教科等の学びへと移行していくかを、子どもの発達や活動の変化を踏まえ、各期で段階的に記述します。

幼児期の「学びの芽生え」から、小学校の「自覚的な学び」へとつながるプロセスを、子どもの発達や興味・関心に応じて、無理なく自然に接続することが大切です。

### 記入のポイント



#### ① 「遊び」から「教科的な学び」への橋渡しを意識する

- ・5歳児期では、遊びや生活の中での気付きや探究心を育む。
- ・1年生期では、その気付きを基に、教科等の学びへとつなげる。

例 自然に触れる遊び → 理科的な観察・記録へ

#### ② 子どもの主体的な活動を中心に描く

- ・子どもが自ら問いをもち、試し、振り返るプロセスを重視する。
- ・教師はそのプロセスを支え、学びの方向性を整える。

#### ③ 期ごとの接続の工夫を具体的に記述する

- ・例 5歳児中期で「数に親しむ遊び」 → 1年生前期で「数の構成を学ぶ」  
5歳児後期で「話し合う楽しさ」を経験 → 1年生前期で「話し合いのルールを知る」

#### (4) 園の主な活動／小学校の生活科を中心とした単元構成

この欄では、5歳児の園での主な活動と、小学校1年生の生活科を中心とした単元構成を記述します。幼児期から小学校への接続を円滑にするために、活動や単元のねらいや内容に対応させながら、子どもの育ちの連続性を意識して記入します。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」については、到達すべき目標や個別に取り出されて指導されるものではありません。また、小学校にも☆で記載しているのは、互いにつながりを意識するためです。

1

**記入のポイント**

**① 5歳児：園の主な活動**

◎…ねらい  
活動を通して育てたい力や、子どもが経験することの意義を簡潔に記述します。

☆…幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



◎身近な自然に積極的に関わり、遊びに取り入れる。

【秋のお店屋さんごっこ】

☆自然との関わり・生命尊重  
☆数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
☆豊かな感性と表現

【 】…遊びや活動  
子どもが実際に取り組む遊びの名称や活動の呼び方を記述します。

9時間…単元に充てる授業時間数を記述します。

**② 小学校：生活科の単元構成**

【 】…単元名  
生活科の学習内容を表す単元名を記述し

○…学習指導要領生活科の内容のまとめ



【はなをそだてよう】9時間

○身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容

(7)動物を飼ったり、植物を育てたりする活動

☆思考力の芽生え  
☆自然との関わり・生命尊重  
☆豊かな感性と表現

( )…学習指導要領生活科の内容

☆…幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

## (5) 指導上の配慮事項

この欄では、5歳児と小学校1年生それぞれの教育・保育の場面において、子どもが安心して活動に取り組み、主体的に学びを深められるようにするための環境構成や大人の関わり方の工夫を記述します。子どもの発達段階や活動の特性に応じた配慮を明確にすることで、教育・保育の質を高め、架け橋期の接続をより円滑にすることができます。

### 記入のポイント

#### ①【5歳児】

##### 環境構成の視点

- ・子どもが自発的に遊びや活動に取り組めるような空間づくりをする。
- ・安心して過ごせる雰囲気や、興味・関心を引き出す素材の配置を行う。

##### 保育者の関わりの視点

- ・子どもの思いや行動を受け止め、必要に応じて援助する。
- ・遊びの中での気づきや学びを言葉でつなぎ、深める支援を行う。



#### ②【小学校1年生】

##### 環境構成の視点

- ・幼児期の経験を生かせるような、柔軟で安心感のある学習環境をつくる。
- ・活動の流れが分かりやすく、見通しをもって取り組める教室づくりを行う。

##### 教師の関わりの視点

- ・子どもの不安や戸惑いに寄り添いながら、学習への意欲を育てる。
- ・活動の目的や意味を丁寧に伝え、子どもが自分で考えられるように促す。



## (6) 子ども同士の交流

この欄では、5歳児と小学1年生や幼児教育施設間の交流活動について、1年間を通してどのように取り組むかを記述します。地域の実態に合わせ、既存の行事を利用するなど柔軟に行います。

5歳児と1年生の欄を分けず、1年間の流れとして一体的に記述することで、子ども同士の関係づくりや交流の内容をより自然に描くことができます。

### 記入のポイント

#### ① 年間の流れを意識して構成する

- ・1年間で3期や4期に分けて記述することで、活動の展開が見えやすくなる。
- ・期の分け方は、地域や園・学校の実情に応じて柔軟に設定する。

## ② 子ども同士の交流活動を具体的に記述する

- ・活動のねらいや、子どもたちの育ちにつながる視点を添えると効果的である。

例 遠足の日時や場所を合わせ一緒に遊ぶ。

小学生が幼児教育施設へ行って交流する。

5歳児同士で交流をする。



## ③ 活動のねらいや効果を意識する

- ・子どもが安心して新しい環境に移行できるようにする。
- ・職員が互いの教育観や実践を理解し、接続期の支援を充実させる。

## (7) 職員の連携

この欄では、幼児教育施設と小学校の職員同士が互いの教育・保育を理解し合うために、また、子どもの育ちをつなぐために、年間を通して位置付けます。

### 記入のポイント

#### ○ 職員同士の連携の内容を明記する

- ・年度当初に職員同士の関係づくりをすることで、連携がしやすくなる。
- ・例えば、授業や保育を参観し、子どもの育ちや教育・保育の内容について意見交換をすることで、理解が深まり、その後の授業や保育に生かすことができる。
- ・入学前後に連絡会や引き継ぎを行い、子どもの様子について情報交換をしたり、育ちを確認したりする。
- ・年度の終盤に話し合いを行い、今年度の取組の反省や次年度の計画を立てることで、次年度の担当が変わってもスムーズに連携ができる。



## (8) 家庭や地域との連携

この欄では、架け橋期のカリキュラムの目的や内容を家庭や地域に伝え、理解と協力を得ながら進めるための取組を記述します。保護者や地域の方々教育・保育のパートナーとして関わることで、子どもの育ちをより豊かに支えることができます。

### 記入のポイント

#### ① カリキュラムの周知方法を記述する

- ・保護者向け説明会や通信、掲示物などを通じて、架け橋期のねらいや活動内容を分かりやすく伝える。
- ・地域の関係者（自治体、子育て支援団体など）にも情報提供し、理解を促す。

## ② 保護者との連携の工夫を記述する

- ・入学に当たって保護者の疑問や不安を減らす。  
(例：校長やPTAなど小学校側からの講話を聴く)
- ・家庭に協力してほしいことを伝える。  
(例：通学路を歩く経験をする、生活リズムを整える、メディアの使い方のルールを決めておく)



## ③ 地域との連携の工夫を記述する

- ・地域の人材や施設を活用する。  
(例：地域の方との昔遊び、図書館や公園での学習)
- ・地域行事への参加や、地域資源を生かした学びを展開する。

## ④ 継続的な関係づくりを意識する

- ・一度きりの関わりではなく、年間を通じて継続的に関係を築く工夫を記述する。
- ・保護者や地域の声を取り入れながら、カリキュラムを柔軟に見直す姿勢も含める。

架け橋期のカリキュラム(長崎県版)

<p>(1) 期待する子ども像</p>	<p>○知識及び技能の基礎 ○思考力、判断力、表現力等の基礎 ○学びに向かう力、人間性等</p> <p>3つの資質・能力</p>					
<p>(2) 3つの資質・能力</p>	<p>○知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力、表現力等</p> <p>○学びに向かう力、人間性等</p>					
<p>(3) 遊びや学びのプロセス</p>	<p>各教科の内容を系統的に学ぶ(自立的な学び)</p>					
<p>(4) 園の主な活動 / 小学校の生活科を中心とした単元構成</p>	<p>Ⅰ期</p> <p>【 】 ☆☆☆</p>	<p>Ⅱ期</p> <p>【 】 ☆☆☆</p>	<p>Ⅲ期</p> <p>【 】 ☆☆☆</p>	<p>Ⅳ期</p> <p>【 】 ☆☆☆</p>	<p>Ⅰ学期</p> <p>【 】 ☆☆☆</p>	<p>Ⅱ学期</p> <p>【 】 ☆☆☆</p>
<p>(5) 指導上の留意事項</p>	<p>○は経験してほしい内容 【 】は遊びが活動例 ☆は遊びの中で特に期待する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(到達目標ではない)</p> <p>◇</p>					
<p>(6) 子ども同士の交流</p>	<p>1学期・夏休み前中</p> <p>2学期前半：園をむかひになる交流(小学校に慣れる)</p> <p>2学期後半：一緒に遊ぶ交流(増進時間を多くする)</p> <p>3学期：入園への交流(安心・期待感をもたせる)</p>					
<p>(7) 職員の連携</p>	<p>□ (時間)</p>					
<p>(8) 家庭や地域との連携</p>	<p>○</p>					

# 架け橋期のカリキュラム(長崎県版) 記入例

## 学ばう意欲をもち自己発揮できる子ども 先生や友達と協同して学び合う子ども

期	基礎		5歳児		1学期		2学期		3学期	
	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎
(1) 期待する子ども像	<p>○知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等</p>									
(2) 3つの資質・能力	<p>○知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等</p>									
(3) 学びの学習プロセス	<p>各教科の内容を系統的に学ぶ(自覚的な学び)</p>									
(4) 園の主な活動 / 小学校の生活科を中心とした単元構成	<p>新しい環境の中で、年長組になったことを喜び、半長児としての自覚をもって生活する。 ・新しい環境に慣れ、友達との遊びを楽しむ。 ・自分なりに試したり、工夫したりして遊びを楽しむ。 ・友達と一緒に協力したり、自分一人の力で達成感を得たり。 ・自分なりに目標をもって取り組む習慣を身につけ、友達と一緒に協力したり、自分一人の力で達成感を得たり。 ・自分なりに目標をもって取り組む習慣を身につけ、友達と一緒に協力したり、自分一人の力で達成感を得たり。</p>									
(5) 指導上の配慮事項(環境構成・保育者・教師の関わり)	<p>○新しい環境の中で、年長組になったことを喜び、半長児としての自覚をもって生活する。 ○年長としての自覚が備わるように、子どもに任せられるように、子どもに任せられるように、子どもに任せられるように。 ○自分たちの生活をよりよくするために、責任をもって生活できるように、子どもに任せられるように、子どもに任せられるように。 ○子ども同士で意思の疎通がうまくいくように、それぞれの思いを十分に話し合ったり、思いを伝えたりできるように、子どもに任せられるように、子どもに任せられるように。 ○使ったものはその程度自分たちで整えられ、整えられない場合は、整理整頓をする十分な時間を確保する。 ○子どもが主体的に考え、判断し、行動できるような環境の構成や働きかけを行う。</p>									
(6) 子ども同士の交流	<p>○1年生が絵本を読み聞かせ、5歳児と一緒に本の世界を楽しむ。(2時間)</p>									
(7) 職員の連携	<p>○保育士(相互理解) 絵本を参観し、意見交換を行う。 ○保育士(相互理解) 絵本を参観し、意見交換を行う。 ○保育士(相互理解) 絵本を参観し、意見交換を行う。</p>									
(8) 地域との連携	<p>○幼児教育と小学校教育のつながりや「架け橋期のカリキュラム」等についての理解の促進(保護者会、通信) ○小学校から学習や学校生活について話を聞いたり、実態に小学校での生活を見たりする機会 ○通学路を歩く練習をすることで、小学校での通学生活がもたらされるよう話をする機会 ○親子への不安を減らすように保護者対象相談会の開催</p>									
国語	<p>【わくわく1ねんせ】7時間 ○学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (1)学校生活に関する活動 ☆自立心 ☆社会生活との関わり ☆言葉による伝え合い</p>									
算数	<p>【はなまきでよう】9時間 ○身近な人々、社会及び自然に関する内容 (7)動物を飼ったり、植物を育てたりする活動 ☆児童の生き生きとした姿 ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									
音楽	<p>【ふゆとともだち】11時間 ○身近な人々、社会及び自然に関する内容 (4)公共物や公共施設を利用する活動 (5)身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関する活動 (6)身近な自然を利用したり、身近にあるものを使って活動するなどして遊ぶ活動 ☆児童性・規範意識の芽生え ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									
図画工作	<p>【いきものだいすき】7時間 ○身近な人々、社会及び自然に関する内容 (7)動物を飼ったり、植物を育てたりする活動 ☆児童の生き生きとした姿 ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									
体育	<p>【あつこころたんけん】12時間 ○学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (1)学校生活に関する活動 ☆児童性・規範意識の芽生え ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									
道徳	<p>【あつこころたんけん】12時間 ○学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (1)学校生活に関する活動 ☆児童性・規範意識の芽生え ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									
特別活動	<p>【あつこころたんけん】12時間 ○学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (1)学校生活に関する活動 ☆児童性・規範意識の芽生え ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									
生活科	<p>【あつこころたんけん】12時間 ○学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (1)学校生活に関する活動 ☆児童性・規範意識の芽生え ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									
スタートカリキュラム	<p>【あつこころたんけん】12時間 ○学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (1)学校生活に関する活動 ☆児童性・規範意識の芽生え ☆自然との関わり・生命尊重 ☆豊かな感性と表現</p>									

## 【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）】

### (1) 健康な心と体

〔保育所の／幼保連携型認定こども園における／幼稚園〕生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

### (2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

### (3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

### (4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。

また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

### (5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。

また、〔保育所の／幼保連携型認定こども園における／幼稚園〕内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

## (6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。

また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

## (7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。

また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

## (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

## (9) 言葉による伝え合い

[保育士等／保育教諭等／先生] や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

## (10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

## 《参考資料》

- 幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？：文部科学省
- 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）：文部科学省
- 今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会  
最終報告：文部科学省



## 《参考》市町におけるカリキュラム（別添）

- 大村市
- 長与町
- 東彼杵町



## 長崎県架け橋期のカリキュラム作成検討会（R6～R7年度）

### <委員>

- |        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 脇 信明   | 長崎大学教育学部幼児教育コース准教授                   |
| 本村 弥寿子 | 長崎女子短期大学幼児教育学科准教授                    |
| 上野 修   | 長崎県私立幼稚園・認定こども園連合会常任理事               |
| 林田 美加子 | 一般社団法人長崎県保育協会副会長                     |
| 山内 英治  | 壱岐市教育委員会学校教育課長（R6）<br>壱岐市立盈科小学校長（R7） |

### <事務局>

- |        |                 |
|--------|-----------------|
| 室野 亜津子 | 長崎県幼児教育センター長    |
| 高田 敦   | 長崎県幼児教育センター課長補佐 |
| 木下 真理子 | 長崎県教育庁義務教育課係長   |